

清算会社の提案

株主への手紙：

2016年7月の設立以来、当社は3年以上にわたって運営を続けてきました。ここで、株主の皆様に状況をご報告いたします。

過去2年間の業務については、株主の皆様もご存知かと思います。今年に入ってからは、昨年末と今年初めに受注したソフトウェアの外注プロジェクトを仕上げると同時に、将来を見据えて、転換を試みました。また、友人企業の外注業務を紹介する仲介業務も手掛け、将来に向けて何か長期的に発展させられる事業はないかと、多くの時間をかけて思考をまとめ、将来を展望しました。

転換期にあり、今年の業績は下降しました。収入は約30万元、粗利益は約10万元で、純利益は多くありません。会社の口座の総資産は39万元残っています。2018年の業績収入は約250万元、粗利益は約60万元、純利益は約40万元で、年末の会社の総資産は約40万元でした。

ここでの収入、粗利益、純利益の概念は少し異なります。収入とは総売上高を指し、粗利益は創設者を除くすべてのフルタイム従業員、パートタイム従業員、下流の第三者協力会社の給与または支出を差し引いたものです。純利益は粗利益から、創設者の給与、会社の家賃、クラウドコンピューティングサービス、営業場所の賃貸料、会計アウトソーシング費用を差し引いたものです。創設者は会社の主要な責任を負っており、多くの費用が個人支出であり、一つ一つ会社に請求していません。できるだけ生活費の領収書を会社に請求するのは、税金対策のためです。私たちはアウトソーシング業務で多くのパートタイム従業員を使用しており、この部分の給与は創設者が領収書を集めて会社に請求し、その後個人的にパートタイム従業員に渡しています。時には領収書が足りない場合、創設者に少し多めの給与を支給し、所得税のルートを通じて税金対策を行っています。

李笑来先生の著書『定投改变命运』から学んだことですが、ブロックチェーンファンドを運営し、5年間の血と汗と涙、そして九死に一生を得た結果、その業績の伸びがビットコインに及ばなかったという話があります。この感覚は、私が会社を運営して3年間感じてきたことまさに同じです。

私は2014年7月から働き始め、5年以上が経ちました。北京での5年間は、低予算版の奮闘物語でした。2015年、エンジニアとして働き、手取り収入は約15万元で、貯金は8万元でした。2016年、友人と半年間共同で起業し、その後自分で半年間起業しましたが、収入は約7万元で、支出は約18万元、損失は11万元で、貯金は1万元未満でした。2017年、起業し、会社は55万元の資金調達を行い、両親への借金7万元を返済し、収入は10万元で、支出は約50万元、年末の会社資産は約5万元でした。2018年、一年間懸命に働き、上記のような結果になりました。

このすべてが、私に頻繁に反省させます。私が努力していないからでしょうか？いったい何が原

因なのでしょうか？なぜ5年間も頑張ってきたのに、まだ何も持っていないのでしょうか？過去5年間を計算してみると、実際には少し損をしており、私はただ何とか自分自身を養うのが精一杯でした。私の問題なのか、それともこの世界に問題があるのでしょうか？なぜ私は211大学に合格でき、比較的積極的でもあるのに、社会の中で苦しい生活を送っているのでしょうか？

个人的な反省は、すでに多く分析してきました。ここでは、社会の問題について話しましょう。都市の消費の大部分は不動産に貢献しており、住宅価格が高い地域では各種の消費も高くなります。個人の日常消費のうち、一部は家賃に、一部は飲食、地元のサービス、交通などに使われ、これらの価格にも家賃のコストが含まれています。誰もが住むための家を必要とし、住宅ローンを支払うか家賃を払うかのどちらかです。そのため、生活を維持するために、彼らはより高い収入を得なければならず、自分たちが提供する商品やサービスの価格を上げざるを得ません。そのため、北京では消費が非常に高くなっています。

はい、毎年の家賃は私の支出の30%以上を占めています。起業して会社を設立すると、9人を収容できるオフィスの月額家賃が1万3千元かかることがわかります。従業員一人ひとりが食事を注文するのが面倒だと感じ、従業員に良くしたいと思い、9人分の食事を注文すると、1ヶ月の出前代も1万元以上かかります。家賃が高い場所では、さまざまな消費も高くなります。そのため、あなたの収入の大部分は政府や家主に貢献していることになります。家賃とそれに伴う高物価を考えると、この部分の支出は月収の50%以上を占めていると思います。

同時に、現代生活において私たちは他人に依存しすぎており、出前や各種の訪問サービスに進化してしまったことに気づきました。これらの商品やサービスは、何重にもマージンが上乗せされ、最終的に私たちの手に届く時には安くはありません。あなたが支払っているのは、ただの一食分の労働だけではなく、Meituanのマーケティング費用、ソフトウェア従業員の支出、配達費用も含まれています。起業で忙しかった頃は、よく出前を頼んでいました。35元で1食、70元で1日、1ヶ月で2100元です。今年は少し時間に余裕ができて、自分で料理をするようになり、週に200元の食材費で、1ヶ月で約900元ですみます。出前に慣れてしまうと、たまに外食もするようになり、何度か外食をすると、1ヶ月の食費は3000元になります。だから私は、資本主義の下で、分業と協力が極限まで進むと、層をなすチェーンが生まれ、大量生産の効率を上げる一方で、時にはコストも上がることに気づきました。なぜなら、各層が生活を維持するために、それがマージンを上乗せするからです。Meituanは、利益を上げ始めたため、徐々に店舗の取り分を引き上げています。アメリカでは、資本主義がさらに進化し、人件費が非常に高くなっています。多くのアメリカ人ができるだけ自分でやろうとし、自分でトイレを修理したり、車を修理したりしているのを見かけます。

同時に、現代社会では、労働による収入と消費を切り離しているため、消費の背後にある労働を直感的に理解することが難しくなっています。例えば、映画1本が60元だとします。お金を使うのは楽しいですが、それは実際には、誰かに6回のファーストフードを作る労働が必要だということを意味します。あなたがより多くのお金を使えば使うほど、それだけ多くの労働が必要

になります。もし私が誰かに6回のファーストフードを作るのに1~2時間かかるとしたら、その映画を見ることはないでしょう。しかし、お金を使うのは楽しいので、お金を使うときにこれらのことを考えません。そのため、都市に住む人々はより気軽にお金を使うようになります。お金があることは本当に快適で、多くの欲望をすぐに満たすことができます。

私が9時から5時までの定時勤務をしていた時、未来が見えませんでした。見たのは、20~30年間働いて、都市で家を買うことだけでした。だから、後に起業しました。起業後、あなたはもっと忙しくなり、生活はもっと難しくなります。私が見たのは、インターネット業界が実際に大きな利益を享受しており、社会には多くの投機的な資金が流入し、多くの会社が資金を調達し、従業員に高い給料を支払っているということです。しかし、これらの会社は市場の見えない手から逃れることはできず、彼らのオフィスの家主、従業員、広告サービスプロバイダー、一般ユーザーは、彼らがインターネット会社であるかどうかを気にせず、彼らに優待や恩恵を与えることはありません。結局のところ、みんな生活しなければならぬので、各役割はできるだけ多くを要求し、すぐに会社はお金がなくなり、上場も発行価格を大幅に下回ります。

インターネットプラットフォームの特性により、大規模なプレイヤーだけが参入できる状況が生まれています。飲食業界のように分散した小規模事業者が多数存在するわけではなく、中小規模のインターネット企業は非常に厳しい状況に置かれています。

私は起業家のトリックを理解し始め、成功する会社を作る方法を学びました。成功する会社とは、細かい計算を重ねる会社であり、収入ができるだけ増やし、コストをできるだけ削減する会社です。それは帳簿をしっかりと管理することであり、市場のように、ユーザーのように、あなたを使わないと言えば使わないし、株式市場で何万ドル、何億ドルの損失を出せば、最善の利益のために一切の情けをかけません。だから、成功する起業家は、必然的に従業員や周囲の人々に対して厳しく、細かい計算を重ねる人です。彼は最も信頼できる働き者を選び、全員に必死に働かせ、少なくとも会社が赤字にならないようにし、最終的には少しでも利益を上げるようにします。もちろん、インターネット業界にはインターネット業界のやり方があります。まずは人脈を作り、資金を調達し、次に製品を良くし、ユーザー数を増やし、ストーリーを続け、最後に上場して現金化する。しかし、この一連のリスクは大きく、予期せぬことが多すぎるため、大多数の人は最終的に破綻してしまいます。

ある会社では、年間のオフィス賃貸料が6000、会計アウトソーシングサービス料が3700、個人所得税や付加価値税も少なくない額です。ブロガーの連岳が最近書いた記事には、多くのネットユーザーが税金が重いとコメントしていました。確かにその通りで、私は合法的に税金を少しでも節約しようと頭を悩ませましたが、結局はかなりの税金を納めることになりました。

以前、私は成功した起業家になり、会社を大きく強くすることを考えていました。しかし、最も優秀な人でも容易ではないことに気づきました。通常、50歳まで頑張って初めて、比較的安心して気楽になれるものです。最も成功したインターネット起業家たちは、40歳前後で会社を上場させますが、会社を安定した利益を上げる状態にするには、さらに5~10年の努力が必要で

す。株式市場はさらに残酷で、悪い決算報告は株価を何度も下落させます。創業者の株式変動は衆目にさらされており、会社の業績が悪いのに現金化しようとすれば、会社の末路は悲惨なものになります。

学校、仕事、起業、なぜ生活はますます難しくなっているのか？多くの賢い人々がいて、多くのハイテクがあるのに、誰もが一生懸命働かなければならず、生活は簡単になるどころか、ますます難しくなっている。

私は、大都市に2軒以上の不動産を持つ資産家、政府高官、立ち退き補償を受けた人々、金融業界のベテランプレイヤーたちにとっては、生活が比較的容易であると考えています。

では、どうすればいいのでしょうか？家の問題は非常に大きいです。私は、広州に戻ることを考えています。私の両親が住んでいて、2010年に比較的安く買った家があります。現在は貸し出していますが、来年は貸さないことを考えています。高校入試の時、私は本校に残って高校に進学することを選び、学校から2万元の奨励金をもらいました。そのお金を両親に渡し、彼らはその家の家具を買いました。彼らが住まないなら、私が戻って住むのも悪くないと思います。それは、親に依存しているわけではありません。

次に、できるだけ自給自足の生活を送り、労働を通じて自分に必要なものを創造するようにしています。私の両親が働いている場所の裏には庭があり、母が野菜を育てています。私はそれを学び、できるだけ自分でできるようになり、社会への依存を減らしたいと考えています。

このようにして、私は一年間の支出がどれくらい必要なのか、どれだけ他人に依存しているのかを考えてみました。この方法には多少の苦労もあると気づきました。しかし、そのすべての苦労は自分のためであり、他人のためではなく、受動的にやらなければならないことではありません。起業や仕事とは異なり、自給自足の方法はより達成感があります。自分で食を作り、豆乳を絞り、お茶を淹れてお菓子を作るようなものです。同時に、中間業者が利益を得る余地がないため、ほとんどの場合、必要なものを最も効率的に満たすことを意味します。私は余った時間を使って、学び、読書し、考えることに充てます。

したがって、株主の皆様、李笑来先生、そして葉飛社長、私は会社の清算を提案させていただきます。もちろん、これは単なる提案であり、皆様のご意見を歓迎します。

私は2つの案を考えました:

1. 55万元の融資について、清算時に50%を即時返済し、残りの50%は5年内に返済することを約束します。現在の会社資産は39万元で、そのうち27.5万元を李笑来と葉飛の株主に分配します。残りの11.5万元は李智維に分配されます。李智維は5年内に2人の株主に27.5万元を返済する必要があります。
2. 55万元の融資について、清算時に50%を即時返済し、残りの50%は返済不要とします。残りの11.5万元は、李智維のこれまでの起業の苦労に対する報酬とみなします。

皆さんにお金を稼ぐのは容易ではないことを理解しています。社会で経験を積むほど、両親の苦労が身に染みて感じられます。だからこそ、私を支えてくださるすべての方々に心から感謝しています。また、以前は株主の方々に多くの利益をもたらすと誓っていましたが、残念ながら現時点ではその能力を持ち合わせていません。

敬具

李智維 (Li Zhiwei)